

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520079

研究課題名(和文)海上自衛隊第1術科学校教育参考館所蔵「古兵書」に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Study of the koheisho through Old Military Texts Collected by the MSDF 1st Service School Education Naval History Museum

研究代表者

高橋 禎雄 (TAKAHASHI, Sadao)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・助教

研究者番号：10292187

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代に兵書は多く著されたが、戦前に海軍兵学校に所蔵されていたものは『国書総目録』では所在不明されていた。しかしそれらは現在、海上自衛隊第1術科学校教育参考館(広島県江田島市)に引き継がれて大切に保存されている。『野澤文庫』と『鷺見文庫』である。本研究ではその全容を明らかにすることを目指した。調査の結果、様々な流派の兵書が残されており、特に『鷺見文庫』に収められる北條流兵書では主要テキストである『士鑑用法』の註釈書に即してみると年代的に変質が生ずることが確認された。また戦前の海軍関係者(軍人・文官教授)によって兵書に関する積極的な調査・分析が行われていたことも明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Although the Edo period witnessed the production of numerous military texts, until the Second World War materials that had been held in the collection of Japan's Naval Academies were listed as "whereabouts unknown" in the Kokusho somokuroku. However, in the present context, these materials have been a part of the collection of the MSDF 1st Service School Naval History Museum (in Etajima), where they have been preserved as the Nozawa bunko and Sumi bunko. The present study sought to explore a comprehensive picture of these collections. Consequently, it was found that the preserved military texts belonged to various schools. Furthermore, some transformation could be observed over time, particularly when seen in reference to the commentary known as the Shikan yoho a major document among the military texts of the Hojo School that is a part of the Sumi bunko. Moreover, it was revealed that active study and analysis of these military documents had been conducted by pre-war officials.

研究分野：思想史

キーワード：兵学 儒学 神道 海上自衛隊 海軍

1. 研究開始当初の背景

研究担当者は、江戸時代の学者、松宮観山(1686-1780)について、先行研究に導かれる形で研究を進めてきた。その過程で松宮観山が継受した北條流兵学の関連書は、『国書総目録』中の「旧海兵」に多く所蔵されていたことがわかった。

兵書研究は太平洋戦争開始以前と1960年代に集中的になされた。そうした先行研究は真摯なモノグラフの蓄積であることは間違いないが、研究史上の不連続とも称すべき状態の背景として考えられるのが、兵書研究が有するバイアスの存在と兵書への思想史的アプローチが必ずしも容易とは言えないことが考えられる。原史料へのアクセスについても、所蔵先の確定を始めとして必ずしも容易とは言えない状態にあった。

近世日本の国家的体質を考える際に、兵営国家という見方もされるように、軍事についての視点が不可欠である。ただし注意しなければならないのは、近世日本の兵学は、純粋に戦闘の技術としての学、それ自体として自己完結的に独自の学的領域を形成するものではないという点である。これは北條流兵学に限ってみても、秘伝書に集約的に示されている。そして原史料の多くが、『松宮観山集』や『国書総目録』その他に拠れば、海軍兵学校に所蔵されていたことがわかる。この実態と現状について、まず明らかにされなければならない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、海軍兵学校が所蔵していた近世日本の兵学書について、その概要を明らかにし、思想史の立場から分析を加えることである。『国書総目録』には「旧海兵」は「戦災その他で焼失または所在不明」とされている。この「旧海兵」について現所蔵先を確かめる手掛かりとなったのは、石岡久夫・

有馬成甫両氏による『日本兵法全集』全7巻(1967-1968)と石岡久夫氏の『日本兵法史』上・下(1972)である。これを基に関連情報の収集を進めた結果、広島県江田島市の海上自衛隊第1術科学校教育参考館に「旧海兵」所蔵分が保存されていることが明らかになった。かくして所蔵先が明らかになった「旧海兵」史料について現地に直接赴き基本調査を行い、近世日本の兵書について全体像を把握すると共に思想史的観点から分析を行うことを目的とした。特に北條流兵学の原史料を確認し、石岡氏が「松宮系」と分類した松宮観山の学統について分析する。

3. 研究の方法

「旧海兵」は、主に2つの文庫から成り立つ。「鷲見文庫」と「野澤文庫」である。「鷲見文庫」は、海軍兵学校が昭和9年(1934)1月に京都の佐々木竹筍堂(現、竹筍書楼)から購入したコレクションで、北條流をはじめ、近世の主要な兵学の流派を含んでいる。

「野澤文庫」は、松山藩の兵学者向井氏、野澤氏が伝えた源家古法を主としたコレクションで、海軍の調査により松山市で発見され、野澤家の子孫で当時小樽市在住の野澤弘幸氏によって大正15年(1926)12月に海軍兵学校に寄贈されたものである。これらは関係者の努力によって敗戦後も散逸することなく現在大切に保存されている。

本研究の具体的方法は、以下の通りである。

(1) 戦前の海軍関係者を中心とした研究を始め、点描的に言及されてきた兵書について、現地に赴き史料実態の調査を行う。

(2) 海上自衛隊第1術科学校が作成した『古兵書目録』の電子化を行う。

(3) 主要史料の撮影を実施する。収集した史料の分析を行う。

(4) 「旧海兵」の史料群中、特に松宮観山の伝授した北條流(「松宮系」)について兵

学・儒学の関係に神道の観点を加えて分析を行う。近世日本の兵書は儒学、そして神道とも密接に連携して思想領域を形成しており、特に兵学と神道の関係は緊密である。これは研究史上既に明らかにされてきた儒学対兵学の図式だけでは解明できない融合領域であって、有馬成甫氏はこれを「兵家神道」と名付けた。これは近世国家の政治的体質を考察する上でも、重要な思想領域である。

4. 研究成果

(1) 海上自衛隊第1術科学校教育参考館・防衛省防衛研究所に数回赴き、海軍兵学校時代の教育参考館に関する史料の調査を行った。これと併行して戦前の兵学研究者(主に海軍関係者)の文献を収集し、戦前の兵学研究の実体に関する基本調査を実施した。

(2) 「鷲見文庫」と「野澤文庫」のデータベースを作成した。

2つの文庫の総量は膨大なものであり、敗戦後の極めて危機的な状況乗り越えて、現在、海上自衛隊第1術科学校教育参考館の管理下において保存状態も極めて良好であることがわかった。その概要は、「鷲見文庫」全1,320点の内、上泉流が26%で最も多く、北條流は6%にとどまる。この点については、「野澤文庫」も全く同様であり、『訓閲集』を中心とする源家古法が同文庫900点の約4割を占める。『闘戦経』もこの中に含まれるのであるが、近世後期の兵書の世界を考える上で、「古伝兵法学」にカテゴライズされる兵書の比率の多さについては改めて検討しなければならない点であろう。

(3) 兵書の思想史的分析の結果であるが、特に幕末期に北條流で免許を受けた鷲見保合は、一つの流派に縛られることない諸流兼学の立場であった。特に北條流に即してみると、「鷲見文庫」の『兵法大事』では、観山の実子の俊英と観山の養子である定俊を記載しているのが、定俊の子の長俊を欠

いており、石岡氏が類別した「松宮系」には、修正が必要ということになる。また内容の点で鷲見保合に北條流兵学を伝授した小倉圭斎については、『士鑑用法』註釈中に徂徠学の影響が見られる。つまり反徂徠学の立場を主観的には保持した松宮観山の思想的立場から乖離していることがわかった。

「野澤文庫」については、現在広く知られている『闘戦経』を収めるが、本書の紹介に尽力した海軍兵学校時代の教育参考館の学術的活動が戦後では省みられていない。この点は研究史的には大きな問題で、海軍関係者達による兵書研究活動に関する詳細についても明らかにされねばならない。なお、本研究開始後、海上自衛隊第1術科学校教育参考館では本研究とは独自に博物館の立場からこの2つの文庫の保存を実施したことを付言しておく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1) 高橋禎雄

近世兵書における「道」解釈の転換 - 『士鑑用法』を中心として - (『日本思想史研究』第47号2015)

〔学会発表〕(計2件)

1) 高橋禎雄

松宮観山の兵書解釈

日本思想史学会2013年度大会研究発表、2013年10月20日、東北大学

2) 高橋禎雄

兵学と国学の間 - 松宮観山と賀茂真淵の思想接続 -

日中若手研究者フォーラム、2013年9月21日、北京日本学研究中心(中国北京市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

高橋 禎雄 (TAKAHASHI, Sadao)
東北大学・高度教養教育・学生支援機構・助教

研究者番号：10292187

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：